

ハッカ(薄荷)



語源

ハッカ属 *Mentha* : ギリシア神話の女神 *Menthe* にちなむ。古代ギリシアの植物学者 *Theophrastus* が付けたもので、地獄の女王 *Proserpine* に、ハッカに変えられたという。
種小名 *arvensis* : 「原野生の」「耕地生の」
変種名 *piperascens* : 「コショウのような」という意味。
生薬名の薄荷は、中国の古いハッカに対する名称バッカ、バツカツから転じたものといわれているが、意味そのものについては詳細不明である。

基原

Mentha arvensis Linne var. *piperascens* Malinvaud
ハッカ

シソ科 多年生草本

近縁植物としては、ヨーロッパ原産のセイヨウハッカ (*M. piperita*) や北米原産のミドリハッカ (*M. viridis*) がある。英語ではセイヨウハッカはペパーミント (Peppermint)、ミドリハッカはスペアミント (Spear-mint)、いわゆるハッカはジャパニーズ・ミント (Japanese Mint) として区別されている。



薬用部分

地上部

産地

中国(江蘇、浙江、江西、湖南、河北、河南、四川など)、日本(北海道、岡山、広島など)

主な成分

精油 : (-)-メントール、アセチルメントール、 α -ピネン、リモネンなど

ハッカはメントールの含有量が最も高く、合成メントールができるまでは日本産の天然メントールが世界中に輸出されていた。セイヨウハッカ(ペパーミント)はメントールの含有量は少ないが、香気はハッカよりはるかに優れている。ちなみにミドリハッカ(スペアミント)にはメントールは含まれず、カルボンが含まれている。ハッカの地上部を蒸気蒸留すると精油が得られ、これを冷却すれば結晶の l -メントール(薄荷脳)が析出する。この l -メントールを除いたものがハッカ油である。

主な薬効

中枢抑制、血管拡張、皮膚刺激、鎮痙

代表的処方

漢方処方用薬としては、精神神経用薬、消炎排膿薬とみなされる処方及びその他の処方に少数例配合されている。

【加味逍遙散】

カミショウヨウサン

体力中等度以下で、のぼせ感があり、肩がこり、疲れやすく、精神不安やいらだちなどの精神神経症状、ときに便秘の傾向のあるものの次の諸症：冷え症、虚弱体質、月経不順、月経困難、更年期障害、血の道症、不眠症

(処方内容) 当帰/芍薬/白朮(蒼朮も可)/茯苓/柴胡/牡丹皮/山梔子/甘草/生姜/薄荷葉

【荊芥連翹湯】

ケイガイレンギョウトウ

体力中等度以上で、皮膚の色が浅黒く、ときに手足の裏に脂汗をかきやすく腹壁が緊張しているものの次の諸症：蓄膿症(副鼻腔炎)、慢性鼻炎、慢性扁桃炎、にきび

(処方内容) 当帰/荊芥/芍薬/防風/川芎/薄荷葉/地黄/枳殻/黄連/甘草/黄芩/白芷/黄柏/桔梗/山梔子/柴胡/連翹

※参考文献：「生薬単」「日本薬局方」「中薬大辞典」「牧野和漢薬草大図鑑」「漢方のくすりの事典」「和漢薬の事典」「一般用漢方製剤承認基準」

⚠ この資料は業者間取引用の説明資料です。一般消費者の方への販促資料としてはお使いにならないようお願いいたします。



健やかな未来を創る自然の力
福田龍株式会社

(お問い合わせ) 〒530-0047大阪市北区西天満1-5-11
TEL : 06-6364-5861 FAX : 06-6364-6562
URL : www.fukudaryu.co.jp